

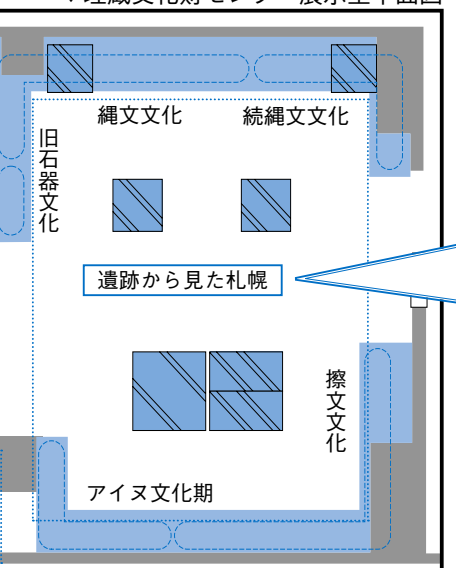
展示室へ行ってみよう！

ここが見どころ！

②遺跡から見た札幌



▼埋蔵文化財センター展示室平面図



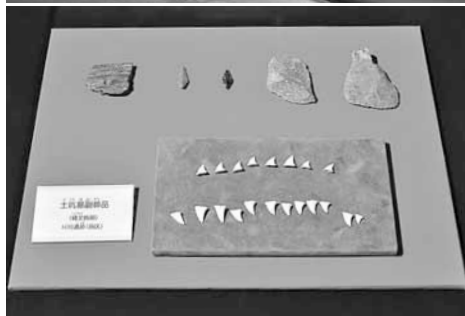
は「発掘された札幌の遺跡」と題し、を展示しています（10月31日(金)まで）

奥に進むと見えるのが、壁三面に配置された約50個体の土器です。ここでは、旧石器文化～縄文文化～続縄文文化～擦文文化～アイヌ文化期までの資料と解説を配置した通史的な展示で、札幌の過去数万年を追体験できます。アイヌ文化期の資料は新たに展示しました。

今回の改修では、資料の入れ替えが可能な展示方法を導入し、定期的な展示物の入れ替えや最新の発掘調査の成果をいち早く展示することが可能になりました。ぜひ、この展示で時代ごとの札幌の歴史の理解を深めてください。



▲▼遺跡から見た札幌（上：旧石器文化～縄文文化～続縄文文化、下：擦文文化～アイヌ文化期）



▲N30遺跡土坑墓の副葬品（縄文晩期）
手前に見えるのはサメの歯です



▲アイヌ文化期の鉄製品などの展示
（K501遺跡（北区篠路2-9）ほか）

埋蔵文化財センターからのお知らせ

遺跡公園整備事業について

札幌市では、サッポロさとらんど（東区丘珠町）内に保存されている縄文時代の遺跡を活用して、古代の食と文化を体験できる遺跡公園の整備を計画しています。

現在は、基本構想検討委員会により整備活用の方針的な考え方の骨子（基本構想）を作成している段階で、平成30年度のオープンを目指して整備を進めています。

遺跡発掘調査に参加しませんか？

遺跡公園整備事業の一環として、昨年度より、市民ボランティアの方々の協力を得ながら、公園内の遺跡の具体的な内容を確認するための部分的な発掘調査を実施したり、夏休み中の中高生を対象とした発掘体験も実施しています。

